

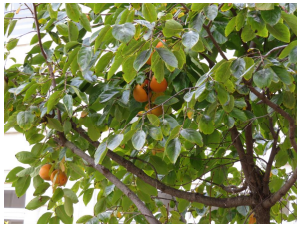


チャレンジ!一歩前へ

郡山市立橋小学校
学校だより No.41
令和5年10月24日
文責:校長 酒井 健

◇橋小学校の中庭では・・・

橋小学校には、南校舎と北校舎との間に、中庭があります。つい最近までは、1年生の子どもたちが休み時間になると「虫取り」に夢中になっていました。虫を見つけると、歓声をあげながら追いかけていました。この中庭では、2年生が「サツマイモ」を、3年生が「にんじん」を、4年生が「ヘチマ」を育てていました。子どもたちにとって、植物、生きものと触れ合う大切な空間なんですね。



また、中庭には柿の木があり、今、たくさんの柿が実っています。残念ながら、これは渋柿だそうです。でも、柿が実っている様子を見ると、何となく落ち着きますね。幼少の頃を思い出すからなのでしょう。小学生の頃、柿の実をだまっ

と取って怒られたりした・・・まさに昭和の思い出です。もう一つ、中庭に「橘の木」があります。橋小学校の名前にもなっている橘という木を見たことはありますか。ミカン科の常緑低木。観賞用として栽植されます。初夏に枝先に白い五弁花を咲かします。どこにあるか分からない

方は、中庭にお越しただいて一度ご覧ください。

もう一つ、今、中庭がきれいに除草されています。これは、用務員の佐藤先生が毎日のように草刈り機できれいにしてくださっているからなんです。子どもたちの授業に支障のないように、パワーをさげたり、放課後に集中したりして除草をしてくださっています。中庭が、本当にきれいになりました。子どもたちの見えないところで、子どもたちのことを考えて、きれいにしてくださっているのです。心から感謝の気持ちでいっぱいです。



橘の木です



【校長のひとりごと】

10月22日(日)、郡山文化センターにおいて、「tbc子ども音楽コンクール東北大会・合奏」が行われ、橋小学校特設合奏部の子どもたちも「合奏第1の部」に出場しました。見事、優秀賞を受賞することができました。すばらしい演奏ではありましたが、子どもたちも目指していた全国大会への出場はできませんでした。ステージでの演奏が午前中であったため、演奏後に一度解散をした後、夕方もう一度、文化センターに集合し、会場で子どもたち、保護者の方々、学校指導者で結果発表を聞きました。全国大会へは別の学校がいくことを聞いた子どもたちは、悔しい気持ちが胸いっぱいになり、涙を流していました。子どもの涙を見るのは辛いものです。年齢のせいもありますが、子どもたちの気持ちが痛いほど分かり、私も涙が溢れました。

【ここからは、合奏部の子どもたちにも伝えたことです】

私も合奏部の指導者として、これまでいくつもの学校でコンクールに出ていました。今回の「tbc子ども音楽コンクール東北大会・合奏」にも十数回、出場したことがあります。以前は、郡山文化センターではなく、宮城県の東北大学川内記念講堂や名取市文化会館などで開催されていました。これ以上の音楽は創れないというところまで、子どもたちとともに演奏を高めていたとしても、全国大会に駒を進めることかできないこともたくさんありました。宮城県から郡山市に戻るバスの中、誰一人一言も話をせず・・・ということもありました。だから、今回の子どもたちの涙も理解できるし、心がキューっとなってしまいう状況もよく分かります。審査員の先生方によって評価が変わることもあるわけで・・・だからこそ、誰が聴いても「んー、すごい」とうならせるくらいの演奏をめざして頑張りましょうね！音楽は「勝った、負けたの世界」のものではないと思います。「音を楽しまない」と！なんです。

合奏部の子どもたちだけではなく、橋小学校の全校生においても、悔し涙を流すことはあるのではないのでしょうか。「運動会で1位を取りたかった」「持久走記録会で自己タイムを伸ばしたかった」悔し涙を流すということは、がんばってきた自分がいるからこそ悔しいのだと思います。

悔し涙は、人を強くします。子どもたちの心をひとまわり大きくします。次の目標が見えてきます。

そして、悔し涙は、きっと嬉し涙に変わることでしょ。熱く語りすぎました。すみません！